

令和4年度 校内研修

(1) 研究主題及び副題

主 題	基本的な学力を身に付け、将来の夢の実現に向けて努力する児童生徒の育成
副 題	小規模校におけるICTを活用した学び合いの授業を通して

(2) 主題設定の理由

様々な課題が社会全体に混在しており、それらの課題を解決していくために、児童一人一人に「確かな学力」を身に付けさせていくことは学校にとって大変重要な責務である。変化が激しく予測の難しい社会を生きぬくためには、様々な知識や経験を生かして自ら考え、判断し、表現して解決していくことが大切になる。

現代社会は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域の活動の基盤となる「知識基盤社会」の時代である。そこで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、それらを活用して課題を解決するために必要な「思考力」・「判断力」・「表現力」等を育む必要がある。

本校の教育目標は、「心豊かでたくましく生きる江平っ子の育成」である。また、めざす児童像として、「よく考える子」「心ゆたかな子」「たくましい子」の三つを掲げ、生きる力を身に付けた児童の育成に取り組んでいる。

令和元年度から、高崎地区小・中学校のめざす教育活動として、児童生徒の15歳の姿を見据え、9年間で地域の児童生徒を育てるという意識をもって教育活動を推進することとし、共通の主題として「基本的な学力を身に付け、将来の夢の実現に向けて努力する児童生徒の育成」を設定した。

本校は、児童数43名、3、4学年及び5、6学年が複式の小規模校である。複式授業の問題点を的確にとらえ、少人数学習の利点を生かしつつ、児童自身が学び方を身に付け、主体的に学ぶ力の育成を図っていく必要がある。本校の多くの児童は、学習に積極的かつ真面目に取り組むことができる。しかしその反面、自信がもてずに学習や学校生活に消極的な児童がおり、学力の二極化が見られる。保護者や地域は協力的であり、学校教育に対する期待も大きいものがある。

昨年度の主題研究では、授業研究会を通して、お互いの授業を見ることで授業改善につながった。また、新聞を活用したワークシートを業間活動の一環として取り組むことで、文章の中から必要事項を抜き出すなど、読み取りを深めるための指導について共通理解を図ることができた。

その一方で、複式の授業形態はまだ確立しておらず、複式授業における学び方の基礎を身に付ける必要がある。「ずらし」「わたり」など活用しながら、分かりやすい学習スタイルや個別指導、などの「個別最適な学び」と問題解決型学習の中で学び合う「協動的な学び」を日々の授業実践につなげていく必要がある。

そこで、これらの課題をふまえつつ本年度も主題を「基本的な学力を身に付け、将来の夢の実現に向けて努力する児童生徒の育成」、副題を「小規模校におけるICTを活用した学び合いの授業を通して」とし、本校の教育的課題を解決すべく、研究に取り組むこととした。

(3) 研究の全体構想および研究組織

